

国際保健を学べる大学の教室・教員紹介

地球規模の健康問題解決に 貢献する人材を育成

多文化交流の長い歴史を持つ長崎で、本学は古くから熱帯医学や放射線医学の世界的研究に取り組んできましたが、地球規模の課題解決に貢献するため、2015年に熱帯医学と国際健康開発の修士課程を統合し、熱帯医学・グローバルヘルス研究科 (School of Tropical Medicine and Global Health、以下 TMGH) を開設しました。

TMGHの修士課程には、臨床経験のある医師が熱帯病や感染症を学ぶ「熱帯医学」、国際保健の実務専門家を育てる「国際健康開発」(公衆衛生課程、MPH)、グローバルヘルスの研究者を目指す「ヘルスイノベーション」の3コースがあります。本大学院は秋入学で、疫学統計、熱帯医学、グローバルヘルス、環境疫学、母子保健、微生物学、医療人類学、保健システム・政策、プログラム管理、医療経済/財政など、多様な科目を英語で学びます。ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院 (London School of Hygiene & Tropical Medicine, LSHTM) の講師陣による授業もあり、とくに疫学・統計は基礎から応用まで実践例で演習しながら、



長崎大学熱帯医学グローバルヘルス研究科
教授

神谷 保彦

1985年 高知医大卒、滋賀医大小児科。リバプール熱帯医学校熱帯小児医学修士、リバプール大博士課程修了。ガーナ等で小児感染症対策、旧ユーゴやイラク等で人道援助に従事。

疫学的なセンスと統計解析スキルを磨くことができます。博士後期課程では、グローバルヘルス専攻の博士号に加えて、LSHTM とのジョイントディグリーを取得できるコースも設けています。文部科学省の卓越大学院プログラムに採択され、手厚い研究支援を受けることができます。その他、熱帯医学・公衆衛生に関する3か月のディプロマコース (Diploma in Tropical Medicine and Hygiene, DTM&H) 及び6か月のサーティフィケートコース (Certificate of Tropical Medicine, CTM) があり、日本、海外の医師が臨床現場に即応する熱帯医学を学ぶ機会を提供しています。TMGHに隣接する熱帯医学研究所による熱帯医学研修課程は日本語で実施され、熱帯医学のエッセンスを3か月間で習得します。さらに、2022年10月にはプラネタリーヘルス学環という分野横断的な学内組

織による DrPH (公衆衛生博士) コースを開講します。プラネタリーヘルスへの貢献を目標として掲げる本学は、学問領域を超えて「地球の健康」の課題解決に取り組んでいます。この新たな博士後期課程で、エビデンスを政策に結び付け、政策の立案、決定、実行に貢献できる実務家リーダーを育成していきます。

現在の学生のなかで、留学生が半数以上をしめています。ガーナ、コンゴ民主共和国などのアフリカ諸国、ミャンマー、ラオスなどのアジア諸国からの留学生が多いですが、中南米、中近東、欧米からの学生も在籍しています。留学生の多くは医師、獣医師、看護師などの資格を持つ保健省の技官ですが、博士後期課程では WHO などの国際機関勤務経験者も少なくありません。日本人は修士課程では看護師、保健師、理学療法士が多い傾向にあります。日本人と留学生が自国の保健システムを紹介し合いながら、共通課題や国特有の問題点を議論することで、保健システムを複眼的に検討し解決策を探る能力を身に付けて行きます。社会人入学も可能で、長崎で講義された授業をオンデマンドで視聴し勉学を続けることができます。実際、JICA や NGO の在外事務所で働きながら、修士、博士課程で学んでいる社会人がいます。また、首都圏で仕事を続けながら、連携大学院である国立国際医療研究センター内に設置したサテライトオフィスを活用して、指導教員から直接研究指導を受けることもできます。



熱帯医学修士学生によるフィリピン・サンラザロ病院との遠隔症例検討会

実践的研修で現場を知る

実務に重点を置く MPH では、低中所得国や日本の地方部で行う短期フィールド研修を通して地域保健の実践的理解を深めています。長期海外実務研修では、WHO（カントリーオフィスや地域事務局）や UNICEF などの国際機関、JICA プロジェクト、NGO で 4-5 か月間のインターンを経験し、実務能力を身に付け、国際保健の運営面の現場感覚を磨いていきます。このインターンシップの際に人脈を作り、その後のキャリア形成に役立てる学生もいます。修士研究では、主に低中所得国でのフィールドワークを通して、母子保健や感染症などに関する調査を行うことが多いですが、研究成果を出すだけでなく、現地調査時の交渉術などマネジメントも体験します。TMGH の大きな魅力は、このように現場からの学びを重視していることです。知識やスキルを異なる文化、制度、状況の現場で活

かし、多様な現実に向き合い、個別の状況に対応する中から、問題の本質を捉える概念化能力も養います。

トレンドにとらわれない探求を一緒に行いましょう

私の研究テーマの一つに、政策と実践の間のギャップ（know-do gap）があります。政策やガイドラインが策定されても現場の実践がとくに低中所得国では不十分なことが多いですが、そのギャップを見極め、実践を促進し、成果を出す実践科学 implementation science を現場の人たちと協働しています。一方で不要な医療や援助を調べ、中止や代案を提示する非実践科学 de-implementation science にも同時に保健医療の現場で取

り組んでいます。他には、特定のトピックや国・地域に関心が偏るアテンション・エコノミー、支援が集中する援助群集化 aid herding を検討しています。保健分野では過去の HIV エイズや最近の COVID-19、人道援助では 90 年代の旧ユーゴスラビアや現在のウクライナがその典型例です。これらの傾向には先進国優位の政治経済作用が働いています。そのような援助の現場で感じる素朴な疑問について、現地の人たちと身体性や感性を共有しながら探求していきませんか？複雑な現実を単純化せず、せめぎ合いに折り合いを付けず、その狭間に留まり、逡巡することが、新たな閃きをもたらすかもしれません。

長崎大学熱帯医学グローバルヘルス研究科の連絡先

TEL : 095-819-7583

e-mail : tmghadmin@ml.nagasaki-u.ac.jp

HP : <https://www.tmgh.nagasaki-u.ac.jp/>



① TMGHが入る長崎大学グローバルヘルス総合研究棟
② MPH学生の短期研修中のWPRO訪問
③ MPH学生によるネパールでのフィールド調査

